

ですが、昨今の高額療養費制度の見直し問題や年金改革法案を巡るテレビの国会中継などを見ていると国に財政的余裕があるように思えません。第一、全国一律の広域対応は現実的でしょうか。むしろ人的・エネルギー資源的にも「地域の問題は地域で対応」することの方が効率的なように思われます。国や地方自治体へ期待したいのは、こうした地域対応への制度的支援と可能な限りの財政的支援のように思われますが、あなたは如何お考えでしょうか。

○あなたは交通弱者の移動支援を誰に期待すればいいと思いますか？

地震等の被災地支援でボランティア活動に取り組む多くの若者の姿には頭が下がります。しかし働き盛りの子育て世代の多くの方々は共働きで時間的余裕がないように思えてなりません。交通弱者の移動支援を学生や現役世代に期待するのは無理があるように思われます。とすれば、見えてくるのは地域で「元気な高齢者」が「手助けを必要とする交

通弱者」を支えるシステム作りではないでしょうか。実はこの考えは塩田地域で昨年始まった「とんからり事業」の基本理念そのものです。こうした活動を安定的に維持・継続するためには、趣旨に賛同して協力して下さるボランティアの参加が不可欠です。また、万一事故が起こったときの対応策及び上田市の財政支援や適正な料金設定による経済基盤の確立などが必要になると思われます。

以上、幾つかの問いを設けて考えてみました。もちろん異論・異見もあるでしょう。塩田地域には「塩田地域包括ケアシステム実行会」という組織があり、その中の「高齢者移動モデルをつくる部会」において様々なケーススタディが進められています。お互い協力し知恵を出し合って地域特性に合わせたより良いシステムに育て上げて行きたいものです。読者の皆様にもぜひご意見をお寄せいただければ幸いです。(K.K.)

「とんからり」に協力いただける人を募集しています

「とんからり事業」では利用者の増加が見込まれ、支援にあたる協力者会員を募集しています。

- ◎ 支援を受ける人（利用者会員）：要支援だが、身体介護の必要はない塩田地域（塩田中学校区内がめやす）にお住まいの70歳以上の高齢者
- ◎ 支援の内容：利用者会員宅を訪問して片付け・買い物代行などの生活支援や通院付き添い・買い物同行などの外出支援をします。外出が必要なときは協力者会員の車を使用します。ガソリン代の実費は補助されます。事故に対しては福祉サービス総合補償保険に会として加入します。
- ◎ 活動範囲：利用者会員の生活圏内が基本
- ◎ 活動の頻度：たとえば買い物代行は一人当たり週1回程度としています。

関心のある方は包括支援センター 0268-37-1537 にお電話下さい！

編集後記

通勤や日常生活で車の便利さを謳歌してきた人がある日車が使えなくなった状況に至ると、代替手段に乏しいことに気づき愕然とするだろう。誰のせいでもなく、車に頼り過ぎた自らが選んだ結果であることに間違いはない。ところで、高齢の方はよくご存じのはずだが「とんからり」は戦争中の「隣組」組織での助け合いを推進・鼓舞する言葉であった。車で簡単に移動できる現在、距離は離れていても新しい隣組を作って互いに助け合うことが可能になった。塩田地域を見渡すと歩いているのは子どもと高齢者のみ。あとは増える一方の車だ。せめて車をそのような助け合いに活かしたいものだ。(N.T.)

回覧

ほうかつ 塩田地域包括支援 センターだより 第40号

令和7年度 夏号 令和7年6月発行

発行：医療法人共和会 塩田病院 塩田地域包括支援センター 編集：センターだより編集委員会



塩田地域包括支援センターでは、独居高齢者や高齢者世帯への訪問、介護保険の説明、地域リハビリ、認知症サポーター養成講座、健康教室などの相談・支援、実施を行っております。

まずはお電話を…

TEL 0268-37-1537 FAX 0268-37-1538

（寄稿）塩田地域の「とんからり事業」を紹介します

“(^♪トントんとんからりのとなりぐみ♪”・・・
とんからり事業は塩田地域で、お隣同士のように支え合うことを目指す有償ボランティア活動です。

高い高齢化率の現状で、様々な生活上の手助けを必要とされている方々がいらっしゃると思います。

そして、高齢の方々の外出の支援は塩田地域においても大きな課題でしょう。

以前から、小さなボランティアグループとして通院の送迎や買い物の手伝い、草刈りなどの手伝いをしてきた”塩田地域支え合いの会“の活動がありました。それを持続可能で広がりのある移動支援活動にしていこうと、塩田地域包括支援センターの生活支援コーディネーターの熱い思いに引っ張られて、1年かけて、資料を集め、”有償ボランティア“としてできるさまざまな方法を検討しました。

そして、上田市の介護予防・日常生活支援事業「訪問型サービスB」を利用することとしました。

地域の住民が支援を必要としている方を訪問し、片付け、ゴミ出しなどの生活支援や、通院、買い物の付き添いなどの外出支援の活動に対して補助金

（年間最大 28 万円）が出る事業です。これによって、必要とされている“車による移動支援”が安定的に行えることとなりました。

	1 0月	1 1月	1 2月	1月
延べ利用回数	1 8回	1 6回	2 0回	2 0回
利用者数	8名	8名	9名	1 4名

とんからり事業としてのスタートは 2024 年 10 月です。今年の 1 月までの 4 か月間の活動実績は表の通りです。現在、利用登録者は 24 人（内、B 型事業対象者 18 人）、活動する協力会員は 7 人です。

一人暮らし、免許を返納したなど生活の支援、外出の支援を必要とされる方はたくさんいらっしゃると思います。利用者の方からは利用料をいただきますが、なにより「助かる」「ありがとう」の言葉をいただけることが、活動の励みであり喜びです。

活動を広げていくために、協力会員が増えることを願っています。興味がある方は、ぜひ塩田地域包括支援センターにお問い合わせください。

（とんからり事業 コーディネーター 西田正志）

「とんからり事業」紹介（前掲西田氏）を読んで

極めて貴重な活動報告をいただいた。まず強い印象を受けたのは、「以前から」小さなボランティア活動グループ「塩田地域支え合いの会」が、行政の制度やすすめによってではなく、全く自発的・自然発生的に存在したという事実である（傍点筆者）。「以前から」とはどのくらいの期間であるかははっきりしないが、おそらくいつ発足したなどという組織的なものでなかったであろう。これを「発見」した塩田地域包括支援センターの Y 氏が、既存の介護保険の「訪問型サービスB」の活用を当てはめたのが「とんからり事業」である。

この経過は非常に重要である。行政の設定した事業に「理解と協力を求める」（上田市文書）事実上の「強制」とは真逆である。行政はこうした動きを積

極的に見出すことをせず、常に行政主導型をめざしている。地域リハビリなどもその一つであろう。しかし現実には「支え合い」は住民の間では既に存在している。例えば筆者が昨年 11 月、左足の捻挫で車を使えなかった時、同じ地域に住む K 編集委員から車の運転を提供するとのメールを頂いた。また H 編集委員は要介護 1 で運転が出来ず、他の編集委員や親族の「支え合い」で恐縮しながら出席を続けておられる。

行政のなすべきことはこうした動きが出てきたときに、同じような事例を紹介し、行政の制度的援助の可能性の有無を提示することである。住民のご近所の自発的動きを基盤にしない行政の制度は効果がないことを改めて指摘しておきたい。（S.M.）

イエイ♡

移住から 3 回目の冬を無事に乗り越えられそうです。内心いささかビックリ！ しかし冗談では済まされない、それより大きな予想外は、通院の大変さ！！！

医院がひしめく都心とはいえ、半径 1 キロの徒歩圏内に、一番多い内科ばかりでなく、歯科 9、眼科 2、耳鼻咽喉科 5、総合病院 1 と、あの医者が嫌ならこの医者と選り取り見取り。体調が悪くても通院に苦労がない所から移住してきたのです。

引っ越してきた塩田地域に徒歩圏にはどの科の医院も皆無。しかも年寄りであれば年々通院の必要性は高まるばかり。これも予想していなかったのはお笑い種！

さらに、3 0 年程前までは、夏ともなればドライブが楽しくて、小淵沢、奥蓼科、万座、小布施、安曇野、大町、白馬、乗鞍岳、奥飛騨、穂高とお気に入り を繰り返し走りまわっていたのに、最近では車

の運転を全く楽しめなくなってきたこと！！！これも全く予想外。

結果、残された道は楽しくない車の運転でも必死でしがみつくしかない。

このような状況下において、「とんからり」は、実にほのかな、しかし実際に手の届く唯一の一条の光明と言えるでしょう。イエイ ♡ （M.K.）



我がこととして考えてみよう！ 運転できなくなったら

もしある日何らかの事情で車を運転できなくなったら「どうするか」、「どうして欲しいのか」について冷静にかつ正直に我がこととして考えることは極めて大切なことと思われます。そこで幾つか問いを設けてみました。皆さんも一緒に考えていただければ幸いです。

○あなたは気兼ねなく運転を頼める人はいますか？

多くの場合真っ先に思い浮かぶのは家族に頼ることでしょう。しかし家族が無理な場合どうしますか。幸い、気楽に頼める親戚や友人・知人がいる方も少なくないと思います。でも短期間ならともかく継続・長期的な買い物や通院などに「気兼ねなく車の運転を伴う付き添い」を頼めるでしょうか。

○あなたは公共交通の便利なお住まいですか？

公共交通の充実に期待したいという意見もあると思います。幸い塩田地域には別所線や上田市の

路線バス・オレンジバス・レイラインバス（季節限定）の他、JA 買い物バスなどもあり、それぞれ利便性向上が図られつつありますが、現状では運行回数が少なくかつ路線経路から外れているため利用したくてもできない住民が少なくありません。あなたの場合は如何ですか？

○完全自動運転車の普及に期待したいところですが・・・

最近よく話題に上るものの一つに完全自動運転バスがあります。確かに科学技術の進展は近年急加速しつつあり、一部の都市では AI による自動運転バスの試験運行が始まっているようです。しかし私たちの住むこの塩田地域にまで普及するのはまだまだ先のことでしょう。高齢者の移動手段の確保は待ったなしの問題です。

○あなたは国や地方自治体に何を期待しますか？

交通システムの抜本的な改善を求めたいところ